

第2回 熊本市スポーツ推進審議会

開催年月日：令和6年（2024年）7月25日（木）

開催時間：午後14時00分～午後15時30分

開催場所：熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

【出席者】

■委員

所属	役職	氏名	備考
熊本大学大学院教育学研究科	教授	坂下 玲子	会長
熊本市スポーツ協会	副会長	福永 政民	
熊本市スポーツ推進委員協議会	副会長	漆畑 幸夫	副会長
熊本市文化スポーツ財団 経営企画課	課長	村上 菜穂	
熊本県社会福祉事業団 事業課 熊本県障害者スポーツ・文化協会		中尾 直道	
スポーツクラブ&スパルネサンス熊本南24	支配人	村田 一基	
ロアッソ熊本スポーツクラブ	理事	首藤 崇	
熊本国際観光コンベンション協会 事業推進課	課長	黒木 三奈子	
熊本市小学校体育連盟		中山 和臣	
熊本市中学校体育連盟		青木 久美子	
公募市民		藤瀬 賀子	

※敬称略

■事務局

熊本市

スポーツ・イベント部 金光部長

スポーツ振興課 岡島課長 岩下副課長 詫間主査 松井主査 松田参事
下長主事

【議事要旨】

(1) 市民アンケート実施報告について

(会長)

それではこれより私のほうで議事を進めてまいりたいと思いますが、円滑な議事進行につきまして、委員の皆様の御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事の1、市民アンケート実施報告について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

「市民アンケート実施報告について（資料1）」説明

(会長)

ありがとうございました。

市民アンケートにつきましては、前回の会議において御意見がございました、こどもへのアンケートや障がいのある方、そしてその保護者の方に向けたヒアリング調査等が行われております。こどもたちのアンケートの回答数はかなりの数ということで、今から結果を楽しみにしているところでございます。委員の皆様から、これら4種のアンケートについて御質問等ございましたらお願いいたします。

(委員)

近年、審議会委員に携わって大事にしたいと思っているのがスポーツの先にある目的です。アンケートの9ページの間29、ここが非常に大事だと思っておりました。

一方で、「どこでスポーツを実施しましたか」という問いについての回答は、自宅またはその周辺というのが多く、いわゆる施設に行けるお金と時間がない中で、毎日の豊かな生活をより豊かにするものというのは、手軽でお金のかからないものというのは大きいだろうなと思いました。特に、昨今こどもたちの環境に置いては小中学校の部活動の見直しが進んでいる中で、なかなか運動に携われないお子さんたちがいらっしゃるということを前回お伝えし、こどもたちを含めたアンケートを行っていただいたことに大変感謝しております。また、熊本市にこども局があるように、こどもが社会に参画していくという視点でも、今回この調査というのは、非常に意義があるものだったというふうに考えております。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。ますます結果が楽しみでございます。

それでは、次の議題に移らせていただきます。議題の2番目になります。第3次熊本市生涯スポーツマスタープラン骨子案について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

「第3次熊本市生涯スポーツマスタープラン骨子案について(資料2)」説明

(会長)

ありがとうございました。このような骨子案を作成していただいておりますが、今回はコンセプト、そして、基本方針、方向性、その辺りを中心に御意見を頂き、それらをもとに今後具体的な素案等の作成に移っていくというような御説明であったかと思います。

今回、様々なお立場から委員の皆さんは御参加頂いておりますので、それぞれの思いも含めまして、基本方針・方向性について忌憚のないご意見、ご質問をお願いできればと思います。

(委員)

これは資料2の3ページの中に、スポーツの範囲というのが競技スポーツのみならず、暮らしそのもののの中に内在する、人生を豊かにする要素というのが含まれているのがとてもいいなと思いながら、お話を聞かせていただきました。

質問2つほどよろしいでしょうか。5ページのマスタープランの将来像を考える上でのキーワードというのはとても大事なことだと思いますが、つながりの中に未来というキーワードがありますが、そちらのイメージやビジョンがあれば教えてください。もう1つが6ページにあります、「スポーツを選びつなげる」というのが重点ということで、説明の際に、環境づくりの話も少し頂きました。その環境づくりというのは具体的にどのようなものなのか、教えてください。

(事務局)

御質問ありがとうございます。

まず1点目の5ページのつながり、絆というところに「ひと・まち・未来」と記載させていただいております。先ほどご紹介したとおり、熊本市は地域の校区ごとにスポーツ協会があり、スポーツ活動を行っていることが特徴的で、地域のボランティアで一生懸命活動していただいているというところは、やはりつながりが非常に強いと感じているところでございまして、そういったつながりというのはずっと脈々と過去からつながっており、それを粘り強く続けていくことがやはり将来にもつながっていくキーワードになるということで、未来ということもあえて入れさせていただきました。

もう1点の6ページの「スポーツを選びつなげる」というところで、環境という言葉で言いますと例えば施設整備がすぐに浮かびますが、10ページの施策の基本政策に1-1から1-5、地域や健康あとは共生社会というところで、広く全体的な環境というところでお話をさせていただいたところで、3番目の誰もがスポーツを選び続けられるというところでは、

先ほど申しました施設面等の環境とか、あと人材育成、ハード・ソフト・人材などが今後具体的な施策のほうにぶら下がっていくイメージをしているところでございます。

(委員)

ありがとうございます。

つながるっていうのは、すごく重要なワードと思っております。いろんな理解が必要で、つながりの中にある未来っていうのはある意味、持続可能にしていくもの、と捉えました。冒頭でもお話ししました部活動の問題も含め、これが将来的にどのようになっていくかという視点は必要だと思っています。もう一つ、最初の市民アンケートの中にある、スポーツ振興がどのような効果があるかというところで、ストレスがなくなり、健康になっていくというふうな、暮らしが明るくなることにつながるということを全面的に出してもいいのかなと思いました。

全く違う視点で、3ページにあるスポーツの範囲についての文中に「スポーツは徒歩や自転車による通勤や買い物、日常生活における活動を含みます」というのも十分豊かな暮らしにつながると言っている中で、誰もがスポーツを選び続けられるという、例えばサイクリングコースや歩けるコース、町そのものに、人が公共交通機関を使わずに移動できるような仕掛けがあると、観光客を含めたインバウンドにつながる。もちろん市民はそれが日常の暮らしの中に内在されていくようなものがあると、より熊本市のまちそのものが持続可能な健康増進になっていくのではないかなと思っています。いわゆる環境そのものが、市民が健康に向かっていくフィールドになるという捉え方で、できる範囲のまちづくりっていうのを推進していくのもいいのかなと考えております。

(会長)

ありがとうございました。環境というものをもっと広くとらえて、全庁的に取り組むというお話がありました。他にご意見等はございますでしょうか。

(委員)

アンケートの調査で障がい者スポーツを知っている、関心があるが1割ちょっとで、現状的にはこんなもんだらうなというところですよ。地域という言葉がいろんなところ出てきますが、総合型のスポーツというのはすごく大事なところで、コミュニティーの最前線がそこだと思っています。国も県も推進していて、地方の方も努力されていますが、地域のコミュニティーの方が総合型を知っているかという、知らない人がほとんどです。

東京パラリンピックの選手を8名出すという事業を5年間やっており、最終的に5年やって10人出るようになったのですが、その後、地域の中で、総合型の人と行政、地区のスポーツ推進委員、障がい者のスポーツを教えるスポーツ指導者協議会ともう一つはPT(理学療法士)を入れて、障がい者でスポーツができない方たちへこの地域のコミュニティー資

源として、パラスポーツの体験会を実施したいということで、3年間で9か所行なう計画で、1年目は基本的にはとても大変でしたが、次の年は総合型スポーツクラブが中心で自分達で体験会を実施するというので、今年も行っています。というところで、地域というのがすごく大事なので、そこをどう捉えるかというところが一つ。

このアンケート結果の中で、共有の施設でスポーツをすることが、障がい者の方はなかなかできないので、地域の中で行うには総合型と地域のスポーツ推進委員とパラスポーツ指導員と理学療法士が協働して推進していただくのが1番いいと思います。その中で障がい者と一緒にできるボッチャというスポーツがあり、大江の校区が行っていますが、そういったことが宣伝されていない。実際、いろんな体験会というのは現在たくさん行われておりますが、なかなかこういった障がい者スポーツがあるということが普及されてないので、総合型の中にこういうのができますよっていうのを少し宣伝していく必要があると思います。広報が少ないので触れ合う機会がないというのが1番大きいかなと思います。小さいことからこつこつと、10年かかろうがこういうスポーツがあるよっていうのを、広報していくことがすごく大事だと思っています。

今、障がい者のスポーツセンターというのが全国都道府県の中でまだ18しかないのですが、スポーツセンターには車椅子とかそういう道具をちゃんと置く場所があります。また、車いすバスケットをされる選手は脊損で体温調整ができない方が多く、一気に体を冷やす部屋が必要だったりします。そういったもう一歩踏み込んだ施設についても必要なので、そういうのも考えていければと思います。県にもそういった障がい者とか健常者の方の、スポーツ専門員がいらっしゃいます。健常者の方も障がい者の方もそういった医学面の支援を受けることができる拠点施設の設立というのはすごく大事であり、そういうこともアピールしていきたいと思っています。

(会長)

大変重要な、視点を頂いたと思っています。地域がキーワードになっておりますけれども、その地域をどうとらえていくか。そして、国のほうもスポーツを通した共生社会ということをおっしゃいますので、熊本市がどういうふうに具体的に、周知して進めていくか検討する必要があるかと思っています。

皆様のそれぞれの立場から、今回のコンセプト、あるいは方向性につきまして、御意見を頂ければありがたく存じます。

(委員)

今のところ、水泳協会として、みんなが泳げるようなプール施設を維持していくことが大切だと思います。

(会長)

ありがとうございました。施設、そしてそれぞれの競技団体からのご意見もヒアリングする必要があるかなというふうに思います。

(委員)

私は、スポーツ推進委員というのをやっております、基本的に、熊本市の5区でスポーツ推進委員250名ぐらいいます。大体各区50名くらいで、私は東区で18校区ありますが、平均しますと、1校区1万人、約18万人おります。基本方針の中にありますように、スポーツを選びつなぐという形で、親子スポーツやフェスタなど校区のつながりを重視することで、人とのつながりがあってまちづくりもできて、それなりの人の情報も交換をできるので、つながりを持ってやっていきたいなと思います。各区それぞれ昔から運動会をやっていましたよね。だんだん人が少なくなって、2年に1回とか3年に1回の開催という校区も出てきています。体協長さんによっては、毎年開催したほうがこどもさんのためにも、高齢者の皆さんのためにも、人を知るということは重要だと考えてらっしゃる方もいますが、どうしても支える側の人が少ないので難しい。1つの例として今年から、東区は託麻4校区とプラスの長嶺の5校区まとめて運動会を開催します。当然経費や維持費の話もありますが、その中に人のつながりを大事にしようということで、1つの地域としてまとまって行うので、運動公園のパークドームで行う予定で、それもいいなと感心しております。この基本方針にもありますが、やはりスポーツはつながりを持って楽しく、健康づくりも含めたところでやっていく方向付けが1番いいのかなと思っております。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。校区地域の強みということで校区体協のお話が最初にありましたけれども、その中での新しい取組等ですね。御紹介頂きましてありがとうございます。それでは、村上委員いかがでしょうか。

(委員)

私どもの財団は公共のスポーツ施設、それから文化施設を管理運営させていただきますが、アンケートの問6にどういったところで運動しているかと、スポーツを実施したかとあり、公共のスポーツ施設が23.7%と3番目に多いというような結果になっておりますが、そのようにスポーツマスタープランのほうに関連しているようなところを、専門的に行っております。公共の施設を管理する上で、いつも念頭に置いているのは、施設によって設備の違いというのは当然ありますが、その中でも、あらゆるライフステージの方で、どのような方でも施設の御利用ができるようにしたいというところです。どうしても設備の違いや、先ほどおっしゃったような車椅子のプレーヤーの方が、体温調整がきかないので急激に体温を下げるようなスペースが必要なことも、実際には対応ができないため、そういったハード面ですぐすぐ対応できないところを、ソフト面で補おうと頑張っておりますが限界があ

ります。この熊本市生涯スポーツマスタープランは、いろいろな方がスポーツ活動に親しむために、スポーツ実施率を上げるためには、どうしていけばいいのかを検討する場なので、実際我々が日々課題として挙げているようなこと等も反映させていければ、前回は上回るよりよいプランができるのではないかと考えております。

(会長)

ありがとうございました。それぞれの立場の現状等をお知らせ頂き反映させていければと思います。それでは続きまして、村田委員、いかがでしょうか。

(委員)

率直な質問ですが、スポーツの実施状況で国の実施率と比較すると高いほうであると資料にあります。実際の実施率が高い自治体や団体はどこかという参考になるようなデータはありますか。

(事務局)

手元にはございませんが、国が公開しているデータが 52%というところで、ちなみに国のほうは計画で 70%まで上げるところを目標として取組を進めているところです。どの自治体が高いかというデータはありません。申し訳ございません。

(委員)

基本方針のつながるというキーワードですが、私は民間のスポーツクラブを運営する中で、1人でトレーニングをしたいというアンケート結果が多くなっていますが、実際会員さん同士のコミュニティで、一緒にトレーニングする中で一体感ができたりもします。その中で、つながるというキーワードが前面にあると、率直に深いイメージなので、もっとライトなほうが地域のスポーツに参加しやすいのではないかと思います。以上です。

(事務局)

非常に貴重な御意見ありがとうございます。民間のスポーツ施設、特にフィットネス系は 24 時間、1 人で手軽にできるというところでたくさんの施設を目にしますが、スポーツを取り巻く環境として、例えば横浜市などは公共施設よりも、民間のスポーツ施設のほうが身近な存在となっていると感じており、先ほど委員がおっしゃったように、今回この計画の中に個人でされる方を、「つながる」というキーワードで阻害してはいけませんので、今後の素案の書きぶりはしっかり整理をさせていただき、「つながる」と言いながらも個人は個人でもスポーツをやっていただくという書きぶりの工夫をしていきたいと思っています。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございました。

続きまして首藤委員、一言お願いできればと思います。

(委員)

私はプロチームから来ておりまして、スポーツをする、見る、支えるという言葉ベースに20年間運営し、その上で元気とか夢とか活力を、熊本にどのように伝えていくか、届けられるかということをいろいろ考えてやってきたのですが、最近はこちらから先10年、スポーツをする、見る、支えるの次にどういうものを具現化していくかというのを考えていたので、今回の基本方針の3つはとても響く言葉だなと思いました。その中で、「つながる」というところに重点マークがついていますが、私はこの重点が本当にベストなのかと少し考えました。地域でつながるとか、市民が健康とつながる、世界とつながるとかはこれまでの実績を積み重ねた結果、ある程度一定の成果が出ており、充実し始めているようなところかなと思っています。つながるためには、スポーツが続けられたり、始められたりなどそういう環境を作っていくことが大事だと思いますし、先ほどもありましたとおり、周知されていないことや子どもたちの活動する場所を今後作っていかないと、「スポーツでつながる」というところにつながらないので、まずはこの基本方針でいうと、2番3番のほうに力を注ぎたいと思っています。その上で、「つながる」というところをどれだけ充実させていくか、つながる人たちを増やしていくか、1人で取り組みたいという方のことも尊重できるような言葉に言い換えができれば、とてもいいのではと思いましたし、例えば「つながる」というところを重点で置くのであれば、ここでスポーツを通して体力も元気も、心も満たされた方たちが、2番3番にパワーを注ぐ、そのためにつながるんだというようなストーリーがあれば、1番先にしてもいいと思います。やっぱり充実した人たちがその指導者として、次の子どもたちを育てるとか、地域の人たちにパワーを伝えていくとか、そういうふうな環境づくり、サイクルを作っていかないと、スポーツを続けるきっかけも失ってしまうし、続けていく人たちの意欲もなくなって、「つながる」という機会が訪れないと思います。

(事務局)

ありがとうございます。今回「つながる」が重点でありこればかり一生懸命やりますというところは当然我々もないところではございますが、その辺りはおっしゃられたようなストーリーや関連というのをしっかり考えさせていただいて、この重点という位置づけについても、受け止め検討させていただければと思っております。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございました。それでは、続きまして黒木委員お願いいたします。

(委員)

この重点ワードの「つながる」というところでいくと、5.6年前にパラスポーツの日本代表のキャンプを熊本で誘致をすることができ、2年間熊本で代表のキャンプを開催しました。その時、パラスポーツを知っていただくということで、ボッチャの体験会をしました。観覧の皆様方も参加したのですが、とても熱中しまして、こんなスポーツがあったら、スポーツ得意でなくても楽しいなという思いがありました。それからボッチャを知ったことによって、いろんなメディアや紙面でボッチャの大会があるとか、体験会があるなというのを認識ができたことを思い出しました。そのほか、ラグビーワールドカップやハンドボールの大会がありましたけれども、そのエクスカージョンで、水前寺の参道を使って、フランス代表の選手たちと地域の皆様方と餅つき大会を行いました。選手の皆様方もすごく喜ばれましたし、地域のこどもたちも目を輝かせており、その子たちが大きくなったらフランスに行きたいなとか行ってみたいなという声も聞かれましたので、そういった選手のつながりが、行く行くは国際交流につながっていくと思い、こういったプロスポーツの国際大会やキャンプというのは、地域の皆さんとつながる役目があると改めて感じたところでございました。これからもスポーツと観光のコラボレーションやスポーツと地域のコラボレーションというのを考えながら、誘致に取り組んでいきたいなというふうに思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。青木委員お願いいたします。

(委員)

こちらを見させていただいて、私も勉強してこどもたちにどう返していけたらいいのかなと思いながら今日参加をしました。つながるとか地域とかの取組があっているということを実感です。先ほど車椅子バスケットの話がありましたが、30数年前に車椅子バスケットが熊本で全国大会を行ったときに、スタッフとしてスコアシートを書きに行きました。その時に、こんなにすごいんだというのを感じました。でもそれをなかなかこどもたちや周りに言えるチャンスがなく、実際に知るチャンスがないというのが実情です。こどもたちにはいろんな情報をアンテナ張って受け取る必要があると思いますし、またそのアンテナ張ったときに、引っかかるような情報が欲しいなと思いました。スポーツでいろんな地域や人とつながるとするのは、生涯的にスポーツをする、資質を養うというのが私たちの目標であって、こどもたちをスポーツに関わらせたいという願いのもとで私も授業をやっており、スポーツをするでもよし、見るでもよし、支えるでもよし、ということでいつも話をしています。私が考えているのは、出前講座を熊本市ではいろいろやっていただいておりますが、その中に、スポーツの関連の出前講座やパラスポーツの講座があると利用したいなと思います。教員の研修の中で、一度講演を聞きに行ったことがありますが、本当はこどもに聞かせたいと思いました。大人になってからどうにかスポーツに関わ

ってくれるといいなと思います。

(会長)

ありがとうございます。情報発信そしてスポーツの関わり方に「知る」というのも大事な
なと思います。ありがとうございます。それでは、最後に藤瀬委員お願いいたします。

(委員)。

気軽に通える場所があればいいのですが、こどもや高齢者の方は時間帯や場所が遠いと
行きにくいなど、年齢幅によって、課題があると思います。スポーツの中でも、小さい子が
どんなスポーツするのか、高齢者の方はどんなスポーツするのか、またその中でも認知され
るスポーツもそれぞれ価値観が違うと思います。例えば指スポという指を動かすだけで脳
トレになりますよというDVDなどをつくって病院の待ち時間に流すとか、ボッチャなど
のスポーツも障がいのある方がやっていますよというアピールできる場所があるいいのか
なと思いました。

(会長)

ありがとうございました。大変貴重な御意見を頂きまして、次の策定に向けて、参考にさ
せていただければと思っております。

(事務局)

今日皆様のそれぞれの立場から貴重なお話をありがとうございます。

骨子については、今回たたき台ということで、皆様から頂いた意見を基に見直しをさせて
いただきたいと思います。またこの骨子を固めた後は素案という形になりますが、その素案
の中で、考え方や魂のほうを込めていくという作業になるかと思しますので、皆様からお聞
きしたお話を整理し、本計画の素案の考え方に取り入れさせていただくということを今後
進めさせていただきたいと思っております。本日は本当に貴重な御意見ありがとうございました。

(会長)

重ねまして本当に貴重な御意見をそれぞれの立場からありがとうございました。それで
は本日の議事は以上となります。